

ELF Ver.4.3における既知の不具合について

2015年1月
ニッタ株式会社

ELFシステムには、以下の不具合が確認されています。
ご使用にあたりましては、下記の内容をご一読くださいますようお願い申し上げます。

<アプリケーションに関する注意事項>

番号	不具合	回避方法
1	「Calibration」ダイアログを表示した後、リアルタイムウィンドウを閉じると、再度リアルタイムウィンドウを開くことができません。	一度アプリケーションを閉じ、再度起動してください。
2	レコーディングを行い、ムービーデータを保存していない状態でアプリケーションを終了しようとする、保存確認のダイアログが表示されますが、それをキャンセルしてアプリケーションを続行した場合、リアルタイムウィンドウが停止した状態になります。この状態でレコーディングを開始しようとする、アプリケーションが強制終了されます。	リアルタイムウィンドウが停止している場合には、一度アプリケーションを閉じ、再度起動してください。

<レコーディングに関する注意事項>

番号	不具合	回避方法
3	複数ハンドルで、サンプリング周波数を高い値に設定している場合に、レコーディングを手動で停止すると、「Devices recorded different number of frames.」のメッセージが表示される場合があります。	終了のタイミングがずれていますが、データには問題はありません。レコーディング時間があらかじめ分かっている場合は、[Frame count]を指定してください。
4	複数ハンドルで、サンプリング周波数を高い値に設定し、トリガを設定してレコーディングを行った場合に、ハンドルによって開始タイミングがずれる場合があります。	サンプリング周波数を4000Hz以下に設定することで、発生頻度を低減することができます。
5	リアルタイムウィンドウを開く時や、「Recording Parameters」ダイアログを閉じた時に、「failed to set frame rate for ~ (ハンドル名)」のメッセージが表示されることがあります。この状態でそのままレコーディングを実行すると、メッセージに表示されたハンドルのサンプリング周波数が設定値と異なった値で動作します。	一度「Recording Parameters」ダイアログを開いて「OK」をクリックすると、再設定され、正常に動作します。
6	複数ハンドルで長時間のレコーディングを行うと、ハンドルによってサンプリングのタイミングが少しずつずれていきます。異なるUSB-HUBを経由すると差が大きくなり、1分間のレコーディングで0.5秒程度のずれが発生します。	回避方法はありません。USBの接続箇所を同じUSB-HUB又はUSB-HUBを経由しないポートにすることで、1分間に発生するずれを0.03秒以下に低減することができます。
7	複数ハンドルでキャリブレーション設定済みの場合、トリガを工学単位で設定しても、指定値よりも低い荷重値でレコーディングが開始されます。これは、接続されたハンドルのうち最大の飽和値に対する比率で管理しているために発生します。	意図しない低い荷重値でレコーディングが開始されてしまう場合は、トリガ値に高めの値を設定してください。

<値の設定に関する注意事項>

番号	不具合	回避方法
8	キャリブレーション設定済みの場合、リアルタイムウィンドウで表示している単位と異なる単位をトリガとして設定しても、リアルタイムウィンドウで表示している単位で設定される場合があります。 [percentage]と工学単位を切り替えた場合に発生します。 例)リアルタイムウィンドウで表示単位を[grams]にしている場合、トリガを50%で指定しても、トリガ値は50gで動作します。	リアルタイムウィンドウで表示している単位と、トリガで使用する単位を同じにしてください。

9	しきい値 (Threshold) に数値を設定しても、設定が保存されず、レコーディングを実行した後に前回設定値に戻る場合があります。	しきい値設定後、レコーディング実行前にリアルタイムウィンドウを一度閉じるか、アプリケーションを終了すると、設定が保存されます。
10	キャリブレーション設定済みの状態で、単位を変更し、「Calibration」ダイアログを表示すると、設定済みのキャリブレーション値の単位がおかしくなっている場合があります。この状態で[Finish]をクリックすると、キャリブレーションが異常な設定になります。 [percentage]と工学単位を何度か切り替えた場合に発生します。	グラフに表示する単位と、キャリブレーションで使用する単位を同じにしてください。
11	キャリブレーション設定済みの状態で、しきい値にそのセンサの飽和値より大きい値を設定すると、自動的に100%として設定され、レコーディング中に飽和した場合には、飽和値(指定値より小さい値)がムービーデータに現れます。	しきい値の設定を、対象センサの飽和値以下の値にしてください。
12	しきい値やトリガ値、グラフの最大最小値等、荷重値を設定する項目で、小数が付く等、指定した値と異なる値が保存される場合があります。これは、荷重値を256段階で管理しているために発生します。	回避方法はありません。

<画面表示に関する注意事項>

番号	不具合	回避方法
13	複数ハンドルでキャリブレーション適用後のムービーウィンドウにおいて、表示を[Strip Chart]または[Column]にしている場合、単位を変更しても、グラフが再描画されず、Y軸座標のラベルのみ変わります。 グラフ上限値は、単位が[percentage]の場合は100%、それ以外は接続されたハンドルのうち最大の飽和値となるため、[percentage]と工学単位で描画位置が変わりますが、単位変更直後は再描画されません。	フレームを移動すると、正しい値が表示されます。
14	複数ハンドルでキャリブレーション設定済みのムービーウィンドウにおいて、表示を[Number]にしている場合、単位を変更すると、異常な数値が表示されます。 フレームを移動すると、正しい値が表示されます。	フレームを移動すると、正しい値が表示されます。
15	リアルタイムウィンドウの「Properties」ダイアログを開くと、グラフ表示が消去されます。 Pause中の場合はダイアログを閉じて消去されたままになります。	回避方法はありません。
16	ハンドルを7台以上接続した場合は、「Properties」ダイアログに[Number]の項目が存在せず、表示を[Number]に変更できません。 リアルタイムウィンドウでは、メニューの[View] - [Number]は選択可能ですが、表示を[Number]に切り替えると、6、7、8台目の数値が重なって表示されます。 レコーディングは正常に動作します。	7台以上接続の場合は、表示を[Strip Chart]又は[Column]にして使用してください。
17	ハンドル名を変更して全角文字を使用すると、「Select Graph Color」のダイアログ上で、ハンドル名が文字化けします。他の「Recording Parameter」のダイアログ等では正常に表示されます。 文字化け以外のレコーディング動作等に影響はありません。	ハンドル名には半角英数字を使用してください。

18	キャリブレーション設定済みで、表示が[Number]の状態、値が1000以上になった場合、整数部が3桁までしか表示されません。	回避方法はありません。 単位を[grams]に設定した状態で値が1000以上になる場合は、[kilograms]に設定してください。
----	---	---

